

第5学年 社会科学習指導案

場 所 5年3組教室

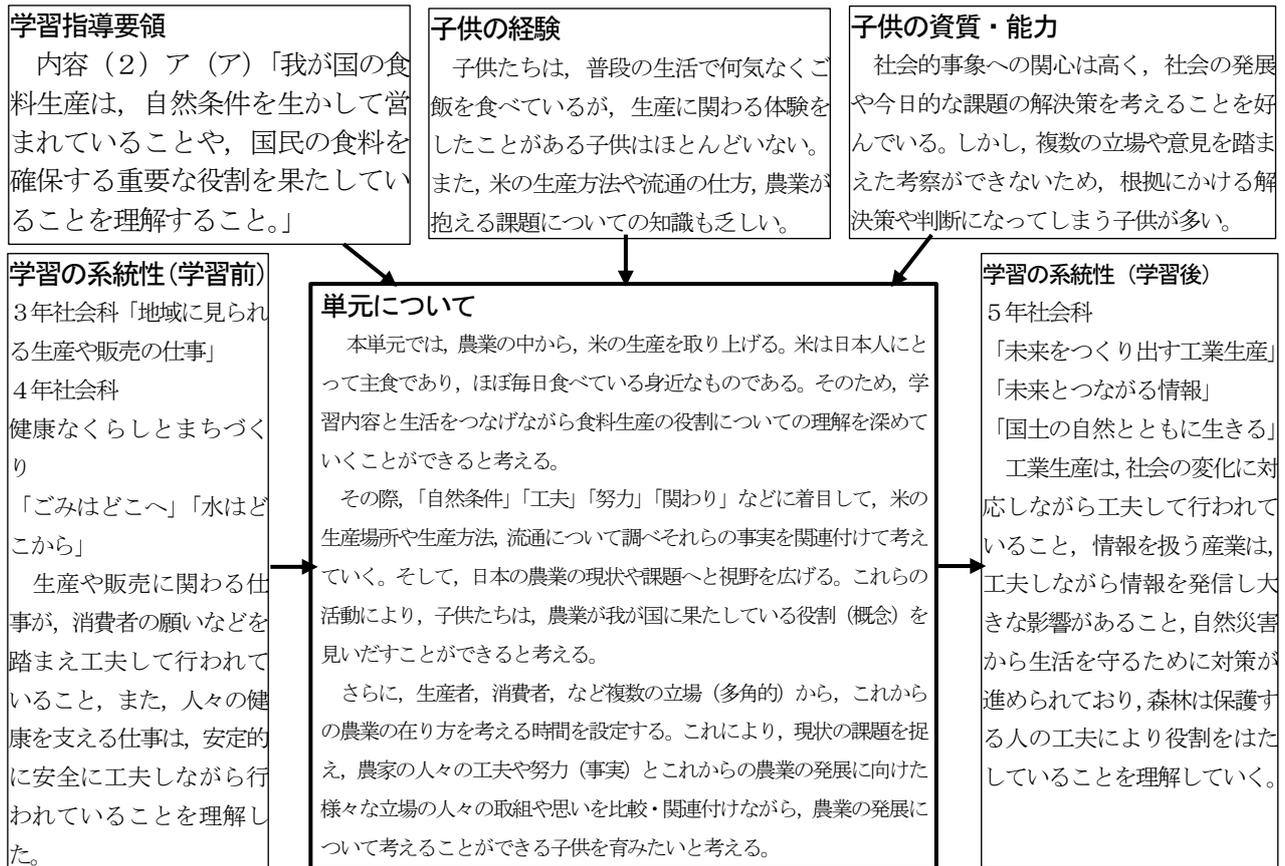
児 童 男18名 女17名 計35名

指導者 阿 部 あゆみ

1 単元名

未来を支える食料生産 一米づくりのさかんな地域—

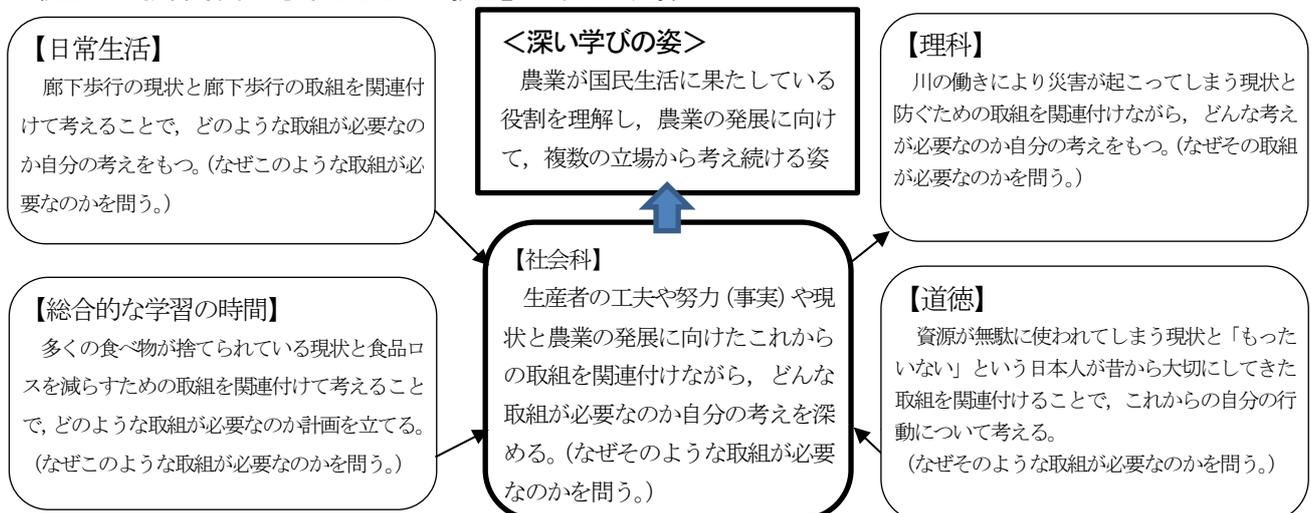
2 単元の指導構想



3 指導にあたって

そこで、豊かな社会や未来の在り方を考える子供を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



視点2 深い学びを実現に向かう単元構成

子供が、複数の立場や意見を踏まえた考察をもとに、社会的事象の意味を捉えたり、社会の発展や今日的な課題の解決策を考え判断し続けたりすることができるよう、次の手立てを講じる。

- 米の生産が国民生活に果たす役割を捉えることができるよう、子供たちが獲得する概念や知識のつながりを分析し、単元の柱となる社会的事象の見方・考え方として、特に「事象と人々の相互関係」における「工夫」「努力」「関わり」を単元に位置付ける。
- 子供たちが、米の生産が国民生活に及ぼす役割を身近なこととして考えることができるよう「食べた物アンケート」を行い、子供の実態をもとに米を学習材として取り上げる。また、いくつかの米の試食の機会を設ける。更に今現在米を安定的に食べることができる生活にあることに気付くことができるように「1993年冷害」の資料を提示する。そこから生まれる子供たちの、問い（問題意識）をもとに、単元の学習問題を設定する。
- 単元のまとめで、農業の発展は社会生活に必要な不可欠なものであることに気付き、農業が抱える課題を解決するための方法を農業に携わる人々の努力や工夫と関連させながら、自分事の問題として考えることができるように、生産者や消費者など様々な立場や意見で多角的に考える場面を位置付ける。

視点3 単位時間の考える活動の充実

単位時間の目標を達成するために、次の手立てを講じる。

- 生産者の工夫や努力を、自分の生活とつなげたり、実感を伴いながら考えたりすることができるよう、農業に携わる人の声や姿を映像資料や写真資料を使い提示する。
- 本単元の社会的事象の見方・考え方に位置付けた「工夫」や「努力」の視点で、生産者と自分の生活の関わりについて理解を深めることができるよう、米の生産者の人々の働きに着目した後、「なぜ、農家に関わる人々は、～しているのか。」と問い、人々の行為の目的や思いに焦点化し、考えることを促す。
- 米の安定的な生産が国民生活に果たす役割や、現在農業が抱える課題のよりよい解決方法を、様々な視点や立場から考察することができるように、それぞれの立場（生産者、消費者、国）の取組とつながりを板書で可視化する。

4 単元の指導計画

(1) 目標

- 食料生産に関わる人々の工夫や努力、我が国の食料生産が国民生活を支えていることを理解するとともに、各種資料で調べ、適切な情報を読み取りまとめることができる。【知識及び技能】
- 産地、種類、技術、自然条件、などに着目し、それらを比較したり、関連付けたりすることで、米の生産に対する問いを見出し、農業と国民生活を関連付け農業が国民生活に果たす役割を考え、これからの農業の発展のための取組について考え、それらを文章や図などに表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 農業に従事する人々の働きや我が国の食料生産が国民生活に果たす役割などに関する課題解決に向けて、予想にもとづき視点をもって意欲的に調べたり、学習したことをもとにこれからの農業の発展について考えたりしようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや食料生産に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう工夫や努力をし、食料生産を支えていることを理解している。	① 産地、種類、技術、自然条件、などに着目し、それらを比較したり、関連付けたりすることで、米の生産に対する問いを見出し、その解決に向けての見通しを考え、表現している。	① 我が国の農業における食料生産の役割について、振り返ったり見直したりして、追究し問題解決しようとしている。
② 食料生産に関わる人々は輸送方法や販売方法を工夫して、食料を消費地に届けるなど、工夫や努力をして食料生産を支えていることを理解している。	② 食料生産における生産の工程、人々の協力関係、技術の向上など、生産に従事する人々の工夫や努力に着目し、食料生産と国民生活を関連付けて、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現している。	② 学習したことをもとに生産者や消費者などの様々な立場などから、これからの農業の発展について考えようとしている。
	③ 農業の発展について、生産者や消費者などの様々な立場から多角的に考え、単元で学習した生産者の努力や工夫と農業の発展のための取組について関連させながら、自分の考えをまとめている。	

(3) 指導計画 (11時間)

段階	主な学習活動	指導の手立て	教科の概	評価規準 (評価方法)
問題の把握 第一次	1・2 普段の生活の中で食べている米は様々な産地や種類があり毎日食べられることに着目し、生産者の果たしている役割について考え学習問題を設定する。 ・ 私たちは毎日米を食べている。米といっても色々な種類や産地のものがある。どのようにしてつくられているのだろう。	・ 普段何気なく食べている米は生産者によって安定的に作られていることに気付くことができるよう、食べた物アンケート、米の試食、都道府県別米の生産量、1997年冷害の資料を順に提示する。 わたしたちが毎日食べている米はどのようにして生産されているのだろう。	・ 関連付ける 米を食べる生活と生産者を関連付けることで、米は生産者によって安定的につくられていることに気付く。 (視点 産地 生産者)	・ 産地、種類、技術、自然条件、などに着目し、それらを比較したり、関連付けたりすることで、米の生産に対する問いを見出し、その解決に向けての見通しを考え、表現している。 【思①→発言・観察】
問題の追究 第二次	3 米の生産量が多い新潟県に着目し自然条件を調べ、米づくりと自然条件の関係について考える。 ・ 新潟県の地形や気候が米づくりに適している。 4 米ができるまでの過程を調べ、米作りに関わる人々の工夫や努力について考える。 ・ 一年を通じて様々な作業がある。 5 農薬や肥料について調べ、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考える。 ・ 農薬や肥料は様々な工夫をして使われている。 6 農家の人々が品種改良を進めてきたことを調べ、その理由について考える。 ・ 農家の人々が努力を重ね品種改良を行ったことで、おいしい米がたくさんとれるようになってきた。 7 農家の人々が機械化や耕地整理を進めてきたことを調べ、その理由について考える。 ・ 機械化を進めたことにより、作業時間が減り、生産量が増えている。 8 米の流通のしくみについて調べ、米の販売に関わる人々の働きや費用について考える。 ・ 米をとどけてくれる人々の働きによって支えられている。	・ 新潟県の自然条件が米づくりに適していることを捉えることができるよう、「気候」「地形」が米づくりにどのような影響を与えているのか問う。 ・ 作業に関わる人の工夫や努力を捉えることができるよう、米づくりの作業や時間の経過が成長にどう影響するのか問う。 ・ 生産者の人々の工夫や努力を捉えることができるよう、なぜかも飼ったり、黒酢をまいたりするなどしているのか問う。 ・ 品種改良が米づくりに与えてきた影響を捉えることができるよう、米の品種の変化の図や米の生産量の変化のグラフを提示する。 ・ 耕地整理や、機械化が与えた変化を捉えることができるよう、なぜ耕地整理を行ったのか問う。 ・ 様々な立場の人々が食料生産を支えていることを捉えることができるよう、「生産者」「農協」「輸送に関わる人々」の役割を板書で可視化する。	・ 関連付ける 新潟県の自然条件と米づくりと関連させることで、新潟県が米づくりに適していることを捉える。(視点 地形 気候) ・ 関連付ける 米づくりの過程を調べ、稲の成長と作業を関連付けることで、生産者の工夫や努力を捉える。(視点 努力 工夫 影響) ・ 関連付ける 稲の栽培方法と収穫した米を関連付けることで、生産者の工夫や努力を捉える。 (視点 工夫 願い 影響) ・ 比較する 品種改良と生産量の変化を比較することで、品種改良によって米がたくさんとれるようになってきたことを捉える。 (視点 工夫 努力 影響) ・ 関連付ける 機械化と作業時間を関連付けることで、効率的に多くの米がとれるようになったことを捉える。(視点 工夫 努力 影響) ・ 関連付ける 生産者と農協、輸送に関わる人々の仕事を関連付けることで、食料生活が様々な立場の人に支えられていることを理解する。(視点 工夫 努力 影響 協力)	・ 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることを理解している。 【知①→ノート】 ・ 食料生産に関わる人々が、一年を通して生産性や品質を高めるよう工夫や努力をしていることを理解している。 【知①→ノート】 ・ 食料生産に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう様々な工夫や努力をしていることを理解している。 【知①→ノート】 ・ 食料生産における生産の工程、人々の協力関係、技術の向上など、人々の工夫や努力に着目し、食料生産と国民生活を関連付けて、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現している。 【思①→発言】 ・ 我が国の農業における食料生産の役割について、振り返ったり見直したりして、意欲的に追究し問題解決しようとしている。 【態①→ノート】 ・ 食料生産に関わる人々は、輸送方法や販売方法を工夫したりして、食料を消費地に届けるなど、工夫や努力をして食料生産を支えていることを理解している。 【知②→ノート】
まとめ 第三次	9 米づくりを取り巻く変化を調べ、米づくりがかかえている課題について考える。 ・ 消費量の減少、農家を継ぐ人の減少が課題だ。 10 11 (本時) 米づくりの課題を解決するための取組を調べ、これからの米作りが安定的に続くためにどのようなことを進めていく必要があるのか、自分の考えをまとめる。 ・ 農業の課題はみんなの課題だ。国が積極的に宣伝に加わり農家を支援し、消費者が米をもっと様々な方法で食べていくことが必要だと思う。	・ 米づくりの問題を捉えることができるよう消費量と生産量、作付け面積の変化、働く人の数の変化のグラフを提示する。 ・ 農業が抱える問題の解決について深く考えることができるように、消費者の対抗する考えを取り上げ「どちらなのか」と問う。その上で、農業の抱える問題には、様々な立場の人の関わりや、生産者・消費者・国のつながりが必要なのに気付くことができるように「農家だけががんばればこの問題は解決できるのか」問う。	・ 関連付ける 米の消費量の減少、生産量の変化、農家で働く人々の減少を関連付けて、米づくりの問題を捉える。(視点 変化 影響) ・ 関連付ける 生産者の工夫や努力と農業の発展を関連付けることで、これからの農業の在り方について自分の意見をもつ。 (視点 工夫 努力 関わり 協力 影響)	・ 我が国の食料生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。 【知②→ノート】 ・ 学習したことをもとに生産者や消費者などの様々な立場などから、これからの農業の発展について考えようとしている。 【態②→発言、ノート】 ・ 単元で学習した生産者の努力や工夫と農業の発展のための取組について関連付けながら、生産者や消費者などの様々な立場をもとに、これからの農業について考えている。 【思②→発言、ノート】

5 本時の指導計画

(1) 目標 (活用する「考えるための技法」・比較するまたは関連付ける)

農家の人々の工夫や努力とこれからの取組を関連付けながら、農業の発展についてどんなことが必要なのかを
考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
単元で学習した生産者の努力や工夫と農業の発展のための取組について関連付けながら、生産者や消費者などの様々な立場で、これからの農業について考えている。 [思考・判断・表現]	既習の農家の人々の工夫や努力の想起や、本日の話し合いにおいて出された考えへの注目を促し、「誰がどんなことをすることがいいのか。」問う。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料 等
導入 (5分)	1 前時を想起し、学習問題を確かめる。 ・ これからも米づくりを続けていくために、なんらかの取組をしなくてはならない。 米づくりを続けていくためにどのような取組をしていけばいいのだろうか。	・ 更に米づくりの発展のための取組の必要性をもつことができるように、前時までの学習の想起を促し、子供の振り返りを取り上げる。	
展開 (30分)	2 自分の考えを出し合う。 ・ 多くの米を食べてもらうために、質のよい安全でおいしい米をつくり続けていくことが大切だ。 ・ 生産量を増やすために、大規模な農家になっている方がいいのではないかな。 3 様々な立場をもとに、これからの農業の発展に必要なことを考える。 ・ 消費者が外国産の安い米を買くと、国産の米が売れなくなってしまうのではないかな。だから国産の米を買うことが大切だ。 ・ 農業には、消費者の行動が大きく関わってくる。生産者が見つけた質がよく安全な米を消費者が買うことも必要なことだ。 ・ 生産者が見つけた米を消費者がもっと買うように勧めていく取組を誰かがすることが必要なのではないかな。	・ 子供の根拠を共有できるように、子供が示した資料をテレビ画面に表示する。 ・ 様々な立場から農業の発展のための取組について考えることができるよう、立場を明確にした板書をずる。 手立て① 農業について深く考えることができるように、消費者の対抗する考えを取り上げ、「どちらがなのかな」を問う。 手立て② 農業の抱える問題の解決には、様々な立場の人の関わりや、生産者・消費者・国のつながりが必要なことに気付くことができるように「農家だけががんばればこの問題は解決できるのかな」問う。 ・ 新たな立場「国」の役割への理解が深まるよう、子供の思考に合わせて資料を提示する。	・ 農家で働く人の変化のグラフ ・ 米の作付け面積の変化 ・ 三輪さんのウェブサイトを ・ ベーグルを作る三輪さん ・ 地域の農家が集まる勉強会 ・ 農業の技術を学ぶ様子 ・ 米の消費量増加を進める農林水産省
まとめ (10分)	4 どうしたら米を安定的に食べる社会が続いていくのか全体での話し合いをもとにした自分の考えをまとめる。 私は農家の人が安全でおいしい米をつくり続けていけばいいと思っていたけどそれだけではだめだと思った。国や県が積極的に宣伝に加わり農家を支援し、消費者が米をもっと様々な方法で食べていくことが必要だと思う。そうしないと、わたしたちの貴重な食料である米を失ってしまう。消費者であるわたしができることは国産の米を進んで食べるということだ。	・ 自分の考えをもつことに行き詰まっている子供が、農業の抱える問題をどのようにすれば解決できるのか考えをまとめられるよう、既習の農家の人々の工夫や努力の想起や、本日の話し合いにおいて出された考えへの注目を促し、だれがどんなことをするのがよいか考えることを促す。 ◇ 生産者や消費者などの様々な立場をもとに、単元で学習した生産者の努力や工夫と農業の発展のための取組について関連付けながら、これからの農業についての考えをまとめている。 [思 発言・ノート]	